

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201119		
法人名	合資会社 けやきの家		
事業所名	グループホーム けやきの家		
所在地	〒651-2124 神戸市西区伊川谷町潤和1355-8		
自己評価作成日	平成30年4月7日	評価結果市町村受理日	平成30年4月23日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様6名1ユニットのグループホームです。季節を感じられる立地でもあり花や野鳥を見る事が出来ます。入居者さんの支援を一番に考えて、それぞれの入居者さんに今、一番大切な事などを職場会議で話し合い実行しています。入居者さまの重度化に対して支援を見直すなど入居者本意で考える様にしています。その日の体調を見極め生活リズムが整えられる様に注意しています。4月より月1回第4金曜日に『カラフルず』と言う誰でも参加の会を開催する運びです。入居者さんのオリエンテーションの場であり、地元住民とのふれあいの場になれば良いと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsoCd=2875201119-00">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsoCd=2875201119-00</a>
----------	---

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者とのかわりにこだわり、1ユニット6名の規模ならではの、利用者それぞれに目の届く支援が行われている。地域の方々と「カラフルず」というカフェ的な催しを主催し行っており、利用者地域の方々とがレクリエーションを行ったり、体操やお茶等、地域の子どもからお年寄りまで幅広く受け入れ、利用者家族・ボランティア・職員が一体となって運営されている。食事の提供も、利用者さんの出来ることにあわせて、調理方法等も考慮し、生活とかかわりのバランスを考えながらの支援が行われている。また、カフェの場や運営推進会議では、地域からの悩みや相談を受けることもあり、開設16年をむかえ、自治会長も務めるなど、良好な地域関係の形成がなされている。看取り支援にも取り組んでおり、可能な限り利用者個々に付き添う支援が心がけられている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所北別館内		
訪問調査日	平成30年4月18日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を壁に掲示していつでも見れる様にしている。毎月1回の職場会議で理念に基づいた支援を話し合っています。	地域密着を意識した、理念・方針・倫理規定が定められており、事業所内にも掲示され、パンフレットにも明示されている。職員会議では、利用者の状況にあわせ、理念に基づいた、利用者寄り、ここに居て楽しいと思えるような支援を、人間としての誇りと自信を尊重した支援を行うには、どうするかを念頭に話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の役員を勤め、入居者さんに地域に配る広報誌の配布を手伝って頂いたり、地域住民の方が集まれる場所として事務所のスペースを使いリハビリ体操などをする催しを考えている。	開設16年目であり、自治会に加入し、地域に根付いた事業所となっている。以前は、あんしんすこやかセンター主催のカフェを事業所で行っていたが、今年度より事業所独自のカフェを開催し、地域の方々やボランティアと共に、利用者・家族・地域の方々交流できる機会を持っている。昨年は自治会長を担い、地域への貢献も行われている。地域行事は少ない地域なので、学校主催の盆踊り等への参加が行われている。	事業所主催のカフェ「カラフルず」を発展させ、地域との繋がりを深めていくと共に、利用者が一体となって楽しめるような、さらなる取組に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民との関わりの中でケア会議の場所の提供と会議に参加して意見を述べる機会があった。これからも活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	会議で入居者さまの状況報告をして参考意見を聞かせて頂いている。入居者さんの家族さんも出席され家族目線の貴重な意見を聞かせて頂いている。	地域住民・民生委員・近隣事業所・利用者家族・あんしんすこやかセンターが参加し、開催されている。地域参加型のカフェ等の開催内容や、地域とのかかわり、ボランティアの活用等について話し合われている。地域や民生委員からの介護に関する悩みや相談などが話し合われることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム会議に出席し他の事業所さんの意見を参考にさせて頂いている。市の担当者さんよりその都度報告を受け情報を参考にさせて頂いている。	運営推進会議の際に、あんしんすこやかセンターが出席し、地域の状況や、他の事業所の状況等、情報交換が行われている。利用者の状況・情報の交換があんしんすこやかセンターと行われている。年4回のグループホーム連絡会には、市の担当者が参加し、連絡・報告事項等が共有されている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を職場会議で行い知識を得る機会を作っている。	拘束・虐待に関する研修として、年1～2回開催している。資料だけではなく、ビデオ研修も利用し、言葉だけではない目で見る研修も取り入れられている。職場会議でも常々言葉遣いや対応について話し合われている。玄関施錠は行われていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回を予定し職場会議で研修用の資料を管理者がまとめ職員全員に学習会として講義している。ビデオ研修など視覚的にニュアンスが伝わる様な狙いで行う形式も取っている。	拘束・虐待に関する研修として、年1～2回開催している。言葉遣い等は、上手く出来ない事を前提に、全員で意識し常に向上を心がけている。年1回個人面談、年2回食事を代表者が開催し、職員の状況やストレスなどを把握・軽減する取組が行われている。面談時や食事会では、職員の不安や想いを聞くことを意識しており、働きやすさやストレスフリーに努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場会議で資料を参考にして、成年後見制度について学習している。制度の必要な方への情報提供が出来るように理解を深めている。	成年後見制度を活用している利用者は現在いない。制度が必要な時に活用できるよう、パンフレットを整備し、研修も行われている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書を基に説明し、質問を受けて納得してから契約して頂いています。入居さんが安心して暮らせる方法を模索し家族さんへの聞き取りに時間を掛けている。	契約時には、利用希望者・家族とともに、面談し、状況に応じた事業所として可能な対応を説明している。見学も必ず行われており、実際の状況を見て頂いた上で、契約へと繋げている。事業所として出来ること出来ない事を説明し、医療的な支援の必要性が常態化する場合は、対応出来なくなる事なども理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に近況報告をし、こちらの疑問点を家族さんから聞き取ったり、家族さんの質問に答えられる様にしていく。常勤者会議の場で現状の把握をし、職場会議で話し合い議事録として共有している。	運営推進会議の意見交換等で聴取されている。出席されない家族からは、面会の頻度は異なるが、大半の方は毎週～2ヶ月程度に1回面会に来られるので、面会時に話す事を意識し、状況を説明した上で、家族からの意見や疑問等を聴取している。家族から出た質問や意見等は、職場会議で共有されている。利用者家族には、普段の状況がわかるよう2ヶ月に1度「けやきの家だより」が送付されている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者により年1回ないし2回の職員の面談を行い、職員の近況報告などを受けている。	職員が支援の中で気づいた、事業所環境に関する意見を基に話し合い、改善につなげる等の取組がなされている。申し送りノートが用意されており、気付きや提案など、共有すべき事項が、職員全体で共有されている。職員の個人面談はパートも含め全員に対し、管理者ではなく代表者が直接行い、普段言いにくいことも直接代表者が聴取できる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者により個人面談を行い職員の悩み事や要望を聞ける様にし、職場環境が良くなる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場会議での学習会により知識を身に付け、現場で実践しフィードバックをしながら経験を積んで行ける様にする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム連絡評議会で情報交換をし、参考意見を職場に持ち帰り会議などに活かしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での聞き取りと顔合わせを行い、少しでも近い仲になれる様に配慮する。見学に来て頂きここが暮らしの場になる事を実感してもらう様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入に至った経緯を聞き、心配に思われている事などに答え、少しでも安心して任される様な関係に努めたい。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況で本人さんと家族さんより『人となり』を聞き取りまず必要な支援を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんに寄り添い、人生の先輩として学ばせて頂いたり必要な時には、すぐに手を差し伸べるような関係を築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんが真ん中に居て右と左に家族さんと職員が居るそんな良い関係を築ける様に努める。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしていた人と場所を聞き取り、入居者さんとの会話の中で盛り込む様に努めている。	行きつけの理容へ家族同行で継続されている。日常の会話の中で、今までの繋がりを把握し、それを基に会話の中へ織り込むなど配慮されている。家族だけではなく、親戚の方々の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係を把握し、パイプ役になって場を盛り上げたり、皆で集まり歌を歌ったりリズム体操をしたりと楽しいイベントを計画する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族さんの知人の入居の問い合わせを頂いたり、施設を評価して頂いており相談や支援に努めた。		

自己 第三者	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネシ</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さんとのコミュニケーションを大切にして、一人ひとりの表情から読み取れる隠れている意思を汲み取れる様に、入居者さんの本心に添いたいと思っています。	希望・意向の直接的な表出が困難な利用者には、言葉遣いや動作などから違和感を察知し、希望・意向から外れたと思われる場合、速やかに検討し修正するようにしている。毎月半数以上の利用者への、サービス担当者会議・カンファレンスが行われており、意向との合致や支援も含め、検討されている。計画作成時には、必ず家族からの意見や意向もくみ上げ、反映するようにしている。日々の支援で気づいた意向や希望は、利用者毎に記録され、職員で共有出来る仕組みになっている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の段階で生活歴などを本人や家族さんから聞き取りをする様に努めている。生活環境などホームで過ごしながら会話などから情報を得る様に努める。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で生活パターンの把握に努め焦点情報に記録して情報を共有できるようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族さんより情報を聞きサービス担当者会議の場で職員全員で検討しより良い生活になるように介護計画書に活かすようにしている。	計画は3ヶ月に1回見直しが行われている。毎月のサービス担当者会議・カンファレンスは職員会議を兼ねており、半数以上の利用者に対し職員全体で話し合われている。日々の支援で気づいたことは、意向や状態も含めて記録されており、職員間で共有が図られている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づき実践できているかの確認を用品紙にチェックをし、ケアの方向が職員間でぶれない様に努めている。職場会議などでその結果を話し合い介護計画に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の現状に合わせてマッサージを行える様に家族に相談しマッサージ師を依頼したり柔軟な支援に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域住民と入居者さんが一緒に楽しめる場所作りを計画し進めている。</p>	/	
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月に2回往診して頂き入居者さんの状況報告をしている。体調の変化を密に取りながら指示を仰いで頂いている。他科の症状に関しては、病院を紹介して頂く。</p>		
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1回入居者さんの状況報告を看護師に行い健康管理に努めている。異常に気付いた時、迅速に対応できるように主治医と看護師に連絡できる体制にしている。</p>	/	
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時や治療開始、退院の目途など受け入れ等、病院関係者との情報交換を行っている。</p>		
33	(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に関しての対応について書面にて同意を得ている。主治医や看護師に連絡を密に取り安心して過ごせる様な体制を取っている。</p>	<p>重度化や終末期に関しての指針に同意を得ている。救急対応時に関する書類は、利用者の状況変化に応じ、内容の再確認、書類の更新が行われている。終末期には主治医から家族への説明の上、看取りについての対応が話し合われている。法人の看護師が密に対応可能であり、必要に応じた対応が行われている。終末期には利用者の状態を優先し、利用者自身に無理のない範囲の支援を心がけている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当マニュアルを作成している。感染症対策は定期的に行っている</p>	/	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(3月・10月)職場会議にて避難訓練を実施している。避難方法を中心に繰り返し行う様になっている。	夜間帯想定避難訓練が意識して行われている。繰り返し行うことで避難の精度を上げる取組がなされている。地域の避難に協力して頂ける方へのお願いも行われている。夜間でも法人代表がすぐに避難活動に参加できる体制にあり、夜勤者以外の手確保が出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり尊重すべき人である事をいつも心掛けて接遇する様にしている。	事業所理念にも掲げられており、支援を考えるにおいて、常に意識されている。研修としても取り組んでおり、常に声かけへの配慮がなされている。職場会議の場で、職員全員と話し合いながら、尊厳を損なわないように心がけられている。脱衣や排泄では、支援との兼ね合いを図りながらプライバシーの確保に努めている。利用者の現有能力と当日の状態を見極めながら、尊厳を尊重する支援の必要性について考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの希望に添えられる様に会話や表情から意思を読み取り希望に添える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定が可能な入居者さんは、出来るだけ今の生活リズムに添える様に努める。意思の表出が難しい入居者さんに関しても、情報に基づき生活が出来る様に努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感を重点において選んでいる。その日の天候に合わせて快適に過ごせる様に努めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より食事作りに入居者さんの関わりが少なくなっている為にメニューの変更を試みている。片付けなど出来る事は、積極的にやって頂いている。	重度化に伴い、利用者全体としての出来ることは限られてきているが、可能な利用者は、準備や片付けなど積極的に楽しまれながら取り組まれている。行事イベント時には、手作りケーキなど、利用者自身が楽しんで取り組めるよう配慮されている。おせちなど、季節の特別食も取り入れられている。4月より、やわらか食を取り入れ、ちゃんとした形と味がありながら咀嚼機能が弱っても、美味しく食事を楽しめるようになっている。職員は、利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記入し、一人ひとりの状態を把握できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者さん一人ひとりに応じた口腔ケアをできる限り行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さん一人ひとりの排泄状況の記録を参考に排泄パターンの把握に努めている。	現在は、利用者全員がトイレでの排泄が可能である。排泄パターンの把握や、利用者の様子による声かけ等で、失敗の少ない配慮がなされている。青汁牛乳なども取り入れ、スムーズな排泄へと繋げている。リハビリパンツの利用はあるが、オムツ使用者は現在いない。誘導声かけや排泄時見守り支援のあり方等に配慮し、排泄時のプライバシーを意識した支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のカンファレンスで排便の報告を受けて水分摂取や飲み物や食事状況を把握し便秘の予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりを均等に入浴して頂く為にだいたいのスケジュールを決めている。夏場は、足浴をメインに行っている。冬場は、重度な方にはリフトを使用して湯船に入っている。	週2～3回以上の入浴が行われている。リフト浴にも対応しており、利用者の負担にならない配慮がなされている。入浴に積極的でない利用者にも、信頼の厚い職員による誘導などで、入浴に繋げている。利用者の状況に応じて、同意を得た異性介助になる場合もあるが、状態や同意に応じて同性介助を行っている。浴室と脱衣所は、通路やリビングから閉鎖されるドアがありプライバシーが守られる作りになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝のカンファレンスで入居者さんの睡眠状態の報告があり、睡眠不足の場合は午前中に解消できるように支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に朝、昼、晩と分けて飲み忘れが無いようにして、服薬の記入をしている。往診時服用状態の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発性に欠ける入居者さまに毎月一回の喫茶であるがコーヒーを入れる役目をお願いすると、自発的に使命感を感じて行なってくれている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんの重度化により外出の機会が少なくなって来ているが、出来る限り外の空気に触れる様に努めたい。	外出可能な利用者は、週1回程度買い物同行などの外出支援が行われている。近隣の公園への散歩等の取組もなされている。季節が良い時期は、事業所のウッドデッキで外気に触れながら時間を過ごす等の配慮もなされている。利用者の重度化に伴い、事業所全体での外出行事は困難になってきている。家族による外出や外食等もある。近隣事業所で開催される、ふれあい喫茶への利用者参加も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる入居者様に対して毎月、決まった額を小遣いとして渡しています。ある程度の決まり事を規約書として渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では、ほとんどその機会がありませんが、本人や家族さんの要望があれば、支援をしたい。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は、シンプルにしているが、季節イベントの時は飾り付けをして季節を感じられるようにしている。	リビングには、椅子、机、ソファがあり、利用者それぞれが自分のペースでくつろいでいる。リビング横にはウッドデッキがあり、外気に連れながら椅子に座ってたたずむこともできる。ウッドデッキ側のソファは陽も入り、ゆったりと過ごすことができる。リビングには温湿度計が設置され、加湿器やエアコン、床暖房などでコントロールされている。身長や座高にあわせ、椅子の高さを利用者によって調整するなどの配慮もある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置いて自由に使ってもらっています。室内から行けるデッキにも椅子やテーブルを置き自由に過ごせるようにしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を家族さんに持って来て頂くようにしています。入居者さんの動線を考えての配置を助言しています。	ベット、クローゼット、エアコンは、備え付けで整備されている。居室には仏壇や筆筒、テレビ、家族や孫の写真、思いのある装飾品等、利用者それぞれ思い思いの物が持ち込まれている。火気等安全上の問題が無い限り、持ち込み品への制限はない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線に沿って所々に手すりを付けて自立で安心に移動できるようにしている。		